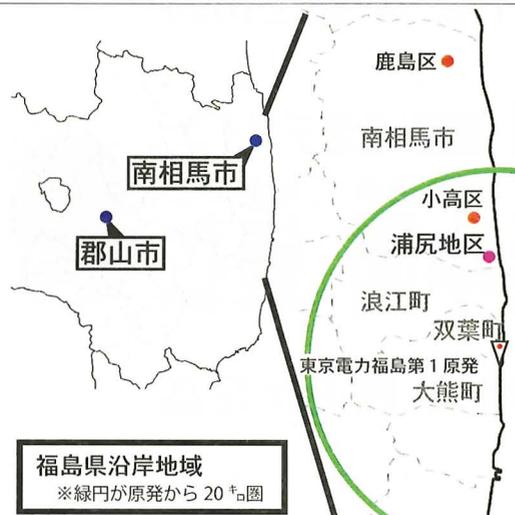


# 復興進む 古里・小高



真新しい防潮堤を歩く後藤さん。更地になった自宅跡を眺めながら「この街のためにできることを探していきたい」と話した。3月11日、福島県南相馬市小高区浦尻地区で（松崎未来撮影）



福島県沿岸地域 ※緑円が原発から20km圏

16年7月には小高区に出されていた居住制限が解除された。「街の実態を班の研究として調査しよう」。仲間と共に古里まで片道2時間、車を運転して通った。同年冬にはJR常磐線「小高と高」として「街の将来を考えながら」周辺で住民に声を掛け「あの人、いつか父の会社を継ぐつもりだ。建設業は街をつくる仕事だ」と話した。古里の復興を支援する「復興支援センター」に所属し「復興」に何かしら関わりたい」と同級生と「災害対策研究班」を立ち上げた。

東日本大震災の発生から7年。福島県南相馬市小高区出身の後藤寛尚さん（工・建築3）は本学進学後も仲間と共に東京電力福島第1原発事故の影響が色濃く残る古里に通い、住民との交流を続けてきた。海岸沿いには昨年、高さ約10mの防潮堤が完成。自宅があった浦尻地区一帯には防災林整備のためマツの苗木が植えられた。復

## 東日本大震災 7年

興が徐々に進む街で自分は何ができてくるのか。「大学で残る1年も、卒業後も、古里のために立ち働きたい」。節目の春、あらためて誓った。

## 寄り添い続ける これからも

「自分のこのように本当にうれしかった。私たちの誇りです」

### 歯学部兼任講師 青

愛がってきた。都内で歯科医院を営む青山さんは、以前からマウスピースの有用性を説いており、モーターを始めとしたマウスピースの作成を依頼した。原選手がカナダに留学している間も、一時帰国はマウスピースを着用し、再び歯形に合わせさせている。マウスピースをミクロ単位で研磨する装置を整えると、体や筋肉活動のバランスが向上する。原選手が平昌五輪の代

### 快挙支えたマウス



原選手に初めて作ったマウスピースと青山さん

手帳に日記をつけていた。もともと。文庫本2冊分合わせたサイズの手帳で、文章を書きつづける。映画や遊園地、写真貼った。その日あったことを1ページに収めず、翌日。SNSで写真をアップ。SNSで写真をアップ。SNSで写真をアップ。SNSで写真をアップ。

### 今月のテーマ

## 最近ハマッ